

# 第35期 報告書

平成26年4月1日 ▶ 平成27年3月31日

証券コード: 7575

...for patient comfort.



**JLI** Japan Lifeline

# 主要連結財務データ

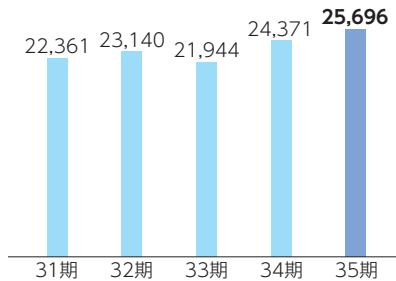
## Financial Highlights

### 当期決算のポイント

- ・ オンリーワン商品等の寄与により売上高は過去最高を更新
- ・ 自社グループ製品の売上構成比上昇により、売上総利益率は2.0ポイント改善
- ・ 営業利益以降の各利益段階で大幅増益

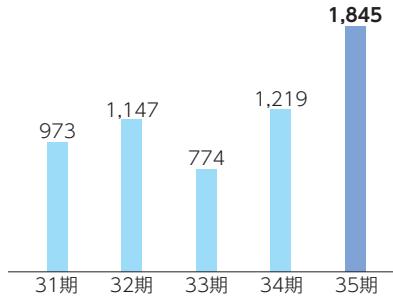
#### 売上高

(単位:百万円)



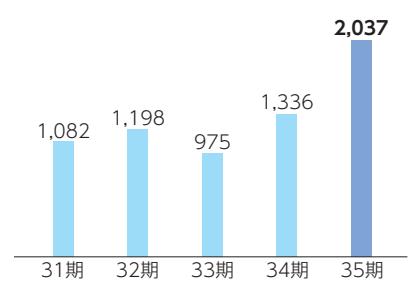
#### 営業利益

(単位:百万円)



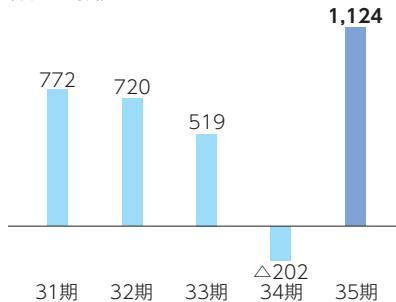
#### 経常利益

(単位:百万円)



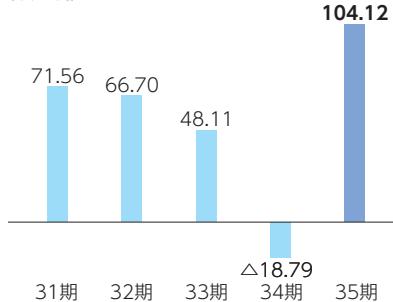
#### 当期純利益

(単位:百万円)



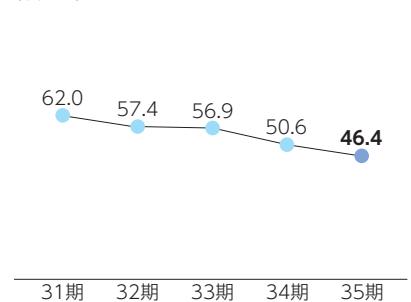
#### 1株当たり当期純利益

(単位:円)



#### 自己資本比率

(単位:%)





# トップインタビュー

Top Management Interview

## ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期におきましては、医療機器の公道価格である保険償還価格の改定が実施され、当社の取扱商品全般の価格が引き下げられたものの、オンリーワン製品を中心とする自社製品の販売が伸長したことにより、売上高は過去最高となりました。

当社といたしましては、今後も自社製品の拡充をさらに進めるとともに、仕入商品におきましても、新商品の早期導入および普及に努め、商社としても、また、メーカーとしてもより一層の成長を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介

### Q

当期の業績はいかがでしたか？

**A** 当期におきましては、EP/アブレーションや外科関連で導入したオンリーワン商品が速やかに市場に浸透し、販売数量を伸ばした結果、保険償還価格の引き下げや、リズムデバイスの低迷といったマイナス要因をカバーし、過去最高の売上高を達成することができました。

また、利益面におきましては、売上規模の拡大に伴う利益の増加に加え、利益率の高い自社製品の売上構成比の上昇により、売上総利益が増加いたしました。また、販売費及び一般管理費につきましては、売上高に比べ増加のペースが緩やかであったことにより、営業利益以降の各利益段階で大幅な増益となりました。

### Q

品目毎の販売状況について教えてください。

**A** リズムデバイスにおきましては、本年3月よりMRI（磁気共鳴画像）検査に対応した心臓ペースメーカー「KORA100（コーラ100）」を発売いたしました。MRI対応ペースメーカーの導入が他社に比べ遅れていたことから、売上高の減少が続いておりましたが、今後はシェア回復に努めてまいります。

EP/アブレーションにおきましては、オンリーワン製品の心腔内除細動カテーテル「BeeAT（ビート）」が伸長したほか、同じくオンリーワン商品である高周波心房中隔穿刺針「RFニードル」が医療現場へ急速に普及したことから、販売数量が増加いたしました。さらに新製品として食道温モニタリングシステム用カテーテル「Esophastar（エソファス

ター)」を導入したことから、一層の売上高の増加に努めてまいります。

外科関連におきましては、昨年7月に発売したオンリーワン製品「J-Graft(ジェイ・グラフト)オープンステントグラフト」が、医療現場において高い評価を得ており、計画を上回り伸長していることから、確実に需要に対応できるよう供給体制の強化を進めております。

インターベンションにおきましては、バルーンカテーテルとしては初の自社製品である「canPass(キャンパス)」が堅調に推移したほか、貫通用カテーテル「Guideliner(ガイドライナー)」につきましても、手技を効率化する医療機器として高い評価を得て販売数量が増加いたしました。



条件付きMRI対応ペースメーカー「KORA100」

**Q** 自社製品が好調ですが、今後もさらにメーカー色を強めて行く方針でしょうか？

**A** 当社は、これまで循環器領域の専門商社として、海外から数多くの最先端の医療機器を国内へ導入してきました。導入に際しては国内の独占販売権を得るとともに、海外メーカーに代わって薬事承認を取得する等、メーカーに近い立場で医療現場と深く関わることにより、高度な専門性を培うとともに、全国を網羅する営業ネットワークを構築してきました。この点が当社のビジネスモデルの強みであり、仕入商品といえども高い利益率を確保できている要因といえます。

そして近年では、商社として築いてきた医療現場との信頼関係や多くの知見を基盤として、日本の医療現場のニーズを反映した製品を市場へ送り出しております。とりわけオンリーワン製品である心腔内除細動システムやオープンステントグラフトは高く評価されており、自社グループ製品は売上高の過半を占めるまでに成長し、業績面でも大きく寄与しております。

当社といたしましては、仕入商品、自社製品を問わず、優れた医療機器をいち早く患者様や医療現場へ届けることが、循環器領域を専門とする当社の役割であると考えており、今後も商社機能、メーカー機能の両方の強化に取り組むことにより、中長年にわたる成長を図ってまいります。

Q

## 来期の見通しはいかがでしょうか？

A 来期におきましては、MRI対応ペースメーカーの拡販に取り組むことにより、当期まで減少が続いていたリズムデバイスの売上高の増加を見込んでおります。さらに、自社製品につきましても、市場の拡大を背景として、引き続き安定的な販売数量の増加を見込んでおります。

また、利益面におきましても、自社製品の開発費用や薬事関連費用の増加が見込まれるものの、売上高の増加が販売費及び一般管理費の増加を上回る見通しであることから、増収増益を計画しております。さらに、特別利益として投資有価証券の売却益の計上を予定しており、最終利益についても大幅増を見込んでおります。

以上のように、業績は今後も堅調に推移することが予想されることから、来期におきましては、一株当たり35円の期末配当を実施させて頂く予定です。当社といたしましては今後も安定配当を基本方針としながら、業績の動向や事業展開における資金需要等を勘案し、株主の皆様に対する利益還元策を適宜実施してまいります。

## ■ 2016年3月期通期業績予想

売上高	29,584百万円(前期比15.1%)	↗
営業利益	2,785百万円(前期比51.0%)	↗
経常利益	2,829百万円(前期比38.9%)	↗
当期純利益	2,171百万円(前期比93.1%)	↗

## Topics

## AED市場へ参入

当社では不整脈治療領域における長年の経験を活かして、新規事業としてAED(自動体外式除細動器)の取扱いを開始いたしました。医療関係者だけでなく、一般の方にも簡単に使用して頂けるAEDを提供することにより、より多くの方が安心して生活できる環境づくりに努めてまいります。



商品名：Cardiac ResQ  
(カーディアックレスキュー)  
希望小売価格：300,000円

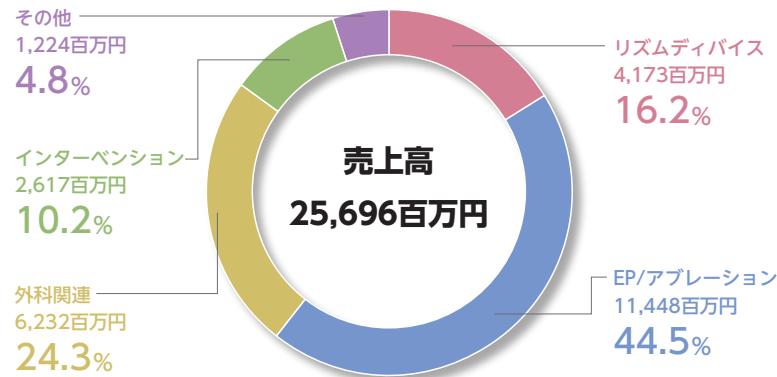
## 【特長】

- ・直観的な素早い操作が可能なシンプルデザイン
- ・日本初のパッドとカートリッジ一体式構造を採用
- ・成人、小児でのパッドの変更が不要
- ・高い堅牢性、防塵/防水(保護等級IP55)

# 品目別売上高

## Sales By Product

当社では心臓循環器領域の幅広い疾患に対応する医療機器を扱っており、国内外のメーカーから仕入れた商品のほか、自社グループ製品としてEPカテーテル、アブレーションカテーテル、ガイドワイヤーおよび人工血管等を販売しております。



### リズムデバイス 不整脈を治療する 植込み型の医療機器を扱う

売上高構成比  
**16.2%**

#### 主要取扱品目

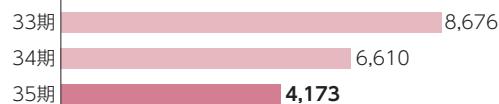
- 心臓ペースメーカー
- ICD (植込み型除細動器)
- CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカー)



心臓ペースメーカー

心臓ペースメーカー関連におきましては、MRI(磁気共鳴画像)検査に対応可能な商品の導入が他社に比べ遅れていたことにより、販売数量が減少いたしました。当社におきましては本年3月より、条件付きMRI対応ペースメーカー[KORA100]の販売を開始したことから、拡販に努めてまいります。また、ICD(植込み型除細動器)関連におきましては、厳しい競争環境の中、販売数量が前期に比べ減少いたしました。

#### 売上高 (単位: 百万円)



### EP/アブレーション 不整脈の検査や治療を行う 電極カテーテルを扱う

売上高構成比  
**44.5%**

#### 主要取扱品目

- EP(電気生理用)カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 心腔内除細動カテーテル

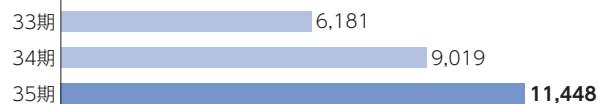


心腔内除細動カテーテル

心房細動のアブレーション治療の症例数増加を背景として、心腔内除細動システムの専用カテーテル[BeeAT]や高周波心房中隔穿刺針[RFニードル]といったオンリーワン商品が伸びました。また、アブレーションカテーテルにつきましては売上高が減少しましたが本年第2四半期の上市を目指し、イリゲーション機能を有する新製品の導入準備を進めております。

以上により、EP/アブレーションの売上高は114億4千8百万円(前期比26.9%増)となりました。

#### 売上高 (単位: 百万円)



### 外科関連

血管や心臓の弁を置き換え  
治療する医療機器を扱う

売上高構成比  
**24.3%**

#### 主要取扱品目

- 人工血管
- 人工心臓弁
- 人工弁輪
- 人工心肺関連商品
- ステントグラフト

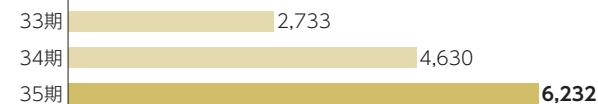


オープンステントグラフト

人工血管関連におきましては、カテーテルを用いて胸部大動脈瘤を治療するステントグラフト[RELAY Plus]が伸びました。また、昨年7月に発売したオンリーワン製品「J-Graftオープンステントグラフト」が、開胸手術を伴う胸部大動脈瘤治療の低侵襲化に寄与することが評価され、急速に普及した結果、人工血管関連の売上高は前期比65.2%の増加となりました。

以上により、外科関連の売上高は62億3千2百万円(前期比34.6%増)となりました。

#### 売上高 (単位: 百万円)



### インターベンション 心筋梗塞等を治療する カテーテル等の医療機器を扱う

売上高構成比  
**10.2%**

#### 主要取扱品目

- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー



バルーンカテーテル(イメージ図)

バルーンカテーテルにおきましては、初の自社製品として昨年4月に発売した「canPass」等の販売数量が増加したものの、保険償還価格引き下げの影響により売上高は前期に比べ微減となりました。またガイドワイヤーは参入企業間の競争が厳しく販売数量が減少したものの、貫通カテーテルにおきましては、手技の効率化を可能とする「Guideliner」の販売数量が順調に増加いたしました。

以上により、インターベンションの売上高は26億1千7百万円(前期比7.1%減)となりました。

#### 売上高 (単位: 百万円)



### その他

連結子会社で販売する  
血液浄化装置等の医療機器

売上高構成比  
**4.8%**

#### 主要取扱品目

- 血液浄化関連商品



血液浄化装置

連結子会社で販売する血液浄化関連商品等のその他の売上高は12億2千4百万円(前期比5.3%減)となりました。

#### 売上高 (単位: 百万円)

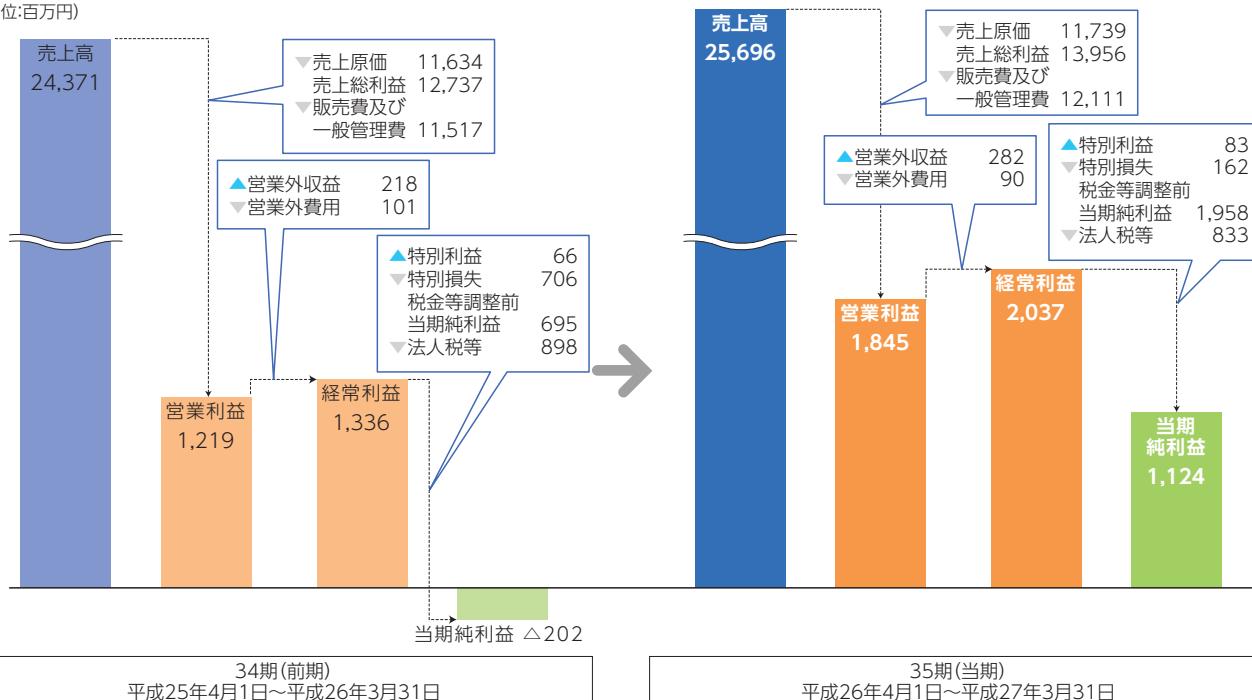


# 連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

## 連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



決算のポイント

### 営業利益

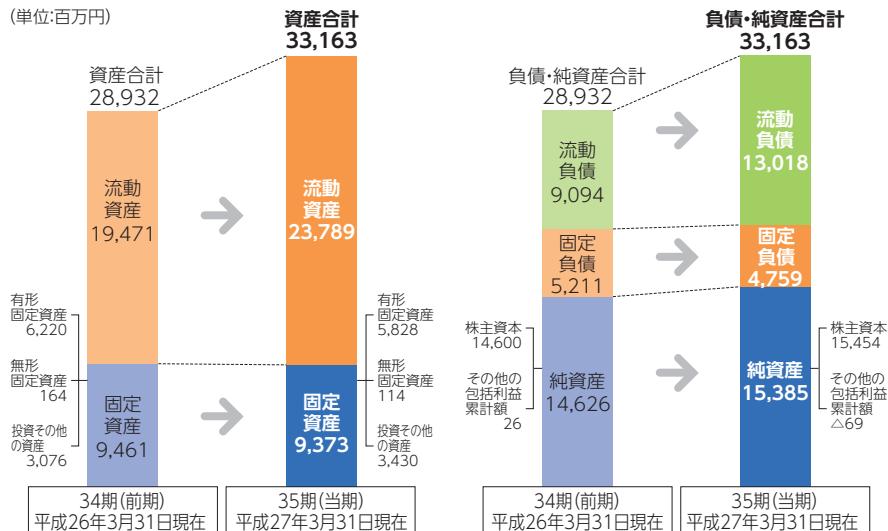
保険償還価格の引き下げによる影響があったものの、収益性の高い自社グループ製品の売上構成比が上昇したことから、売上総利益率は前期に比べ2.0ポイント改善いたしました。その一方で、自社製品の開発費用や営業活動に伴う旅費交通費等の増加により、販売費及び一般管理費が前期に比べ増加したことから、営業利益は18億4千5百万円(前期比51.3%増)となりました。

### 当期純利益

小山ファクトリーに係る助成金等を、特別利益として8千3百万円計上した一方で、固定資産除却損4千6百万円、投資有価証券評価損3千5百万円等の特別損失を1億6千2百万円計上したことから、当期純利益は11億2千4百万円となりました。

## ■ 連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



## 決算のポイント

### 流動資産

売上債権が10億3千1百万円、たな卸資産が6億7千7百万円、現金及び預金が6億8千6百万円増加したこと等により、前期末に比べ43億1千8百万円増加し、237億8千9百万円となりました。

### 流動負債

仕入債務が26億1千1百万円、借入金が13億7百万円増加したこと等により、前期末に比べ39億2千3百万円増加し、130億1千8百万円となりました。

### 固定負債

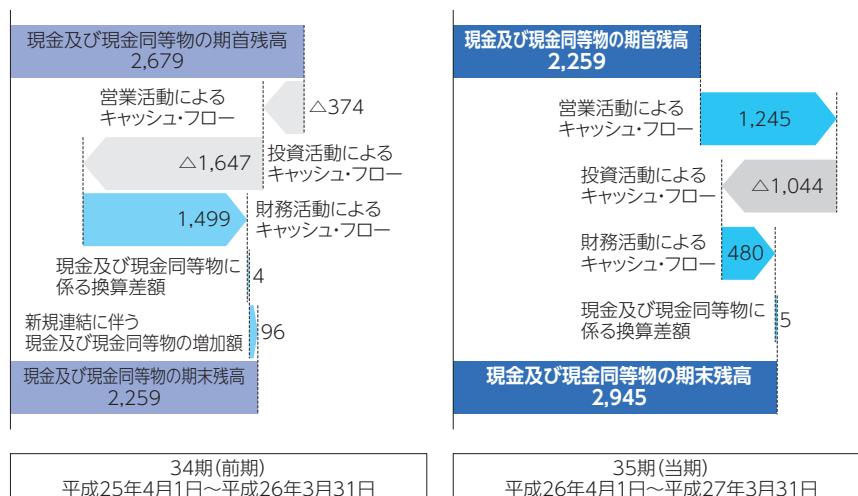
長期借入金の約定返済による減少が4億6千1百万円であったこと等により、前期末に比べ4億5千1百万円減少し、47億5千9百万円となりました。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

仕入債務の増減による収入が24億6千7百万円増加した25億3百万円、たな卸資産の増加による支出が10億1千5百万円減少した6億4千8百万円、未収入金の増加による支出を主たる要因とした「その他」の支出が18億6千1百万円となったこと等により、12億4千5百万円の収入となりました。

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



# 会社概況

## Corporate Data

### ■ 会社概要

(平成27年3月31日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結759名 単体570名
上場取引所	東京証券取引所 JASDAQスタンダード
連結子会社	JUNKEN MEDICAL株式会社 SYNEXMED(HONG KONG)LTD. 心宜医療器械(深圳)有限公司 株式会社ハートブレーン

### ■ 役員

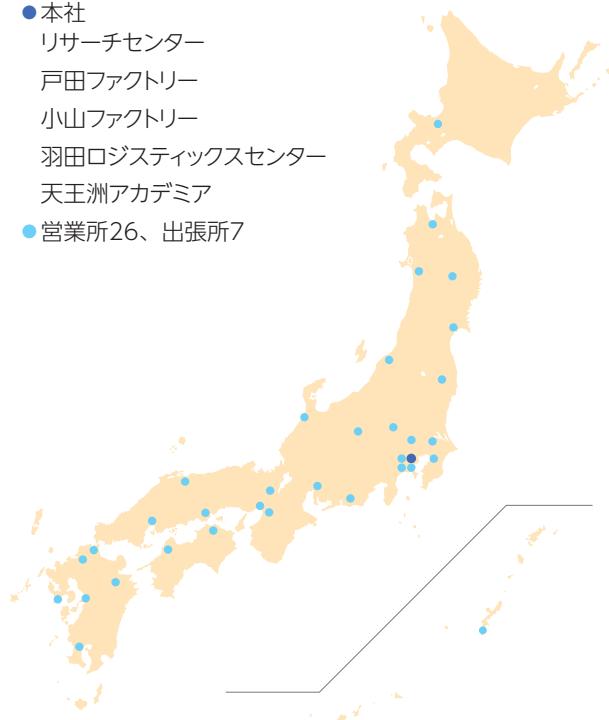
(平成27年6月25日現在)

取締役会長 増本 武司	取締役 山田 健二
代表取締役社長 鈴木 啓介	取締役 渡辺 修
代表取締役副社長 鈴木 厚宏	社外取締役 佐々木文裕
常務取締役 高橋 省悟	常勤監査役 神谷 安恒
取締役 黒沼 孝之	社外監査役 中村 勝彦
取締役 野上 和彦	社外監査役 浅利 大造

### ■ 事業所

(平成27年6月1日現在)

- 本社  
リサーチセンター  
戸田ファクトリー  
小山ファクトリー  
羽田ロジスティックスセンター  
天王洲アカデミア
- 営業所26、出張所7



最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください

<http://www.jil.co.jp/investors/>

当社の最新ニュース、製品案内および財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧ください。

投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



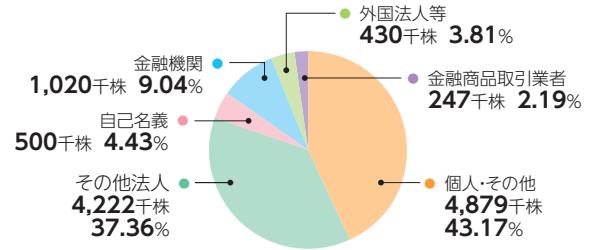
### 株式の状況 (平成27年3月31日現在)

発行可能株式総数	43,300,000株
発行済株式の総数	11,302,497株
株主数	3,164名
大株主	

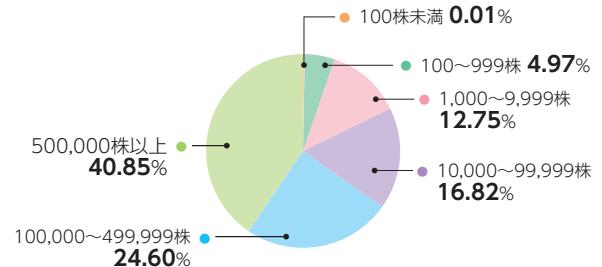
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	3,020	27.96
KS商事株式会社	1,096	10.15
日本証券金融株式会社	499	4.62
片山晃	490	4.54
鈴木啓介	331	3.07
増本武司	307	2.85
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	199	1.85
日本ライフライン従業員持株会	176	1.63
五味大輔	170	1.57
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	150	1.39

(注) 持株比率は、自己株式(500,593株)を控除して計算しております。

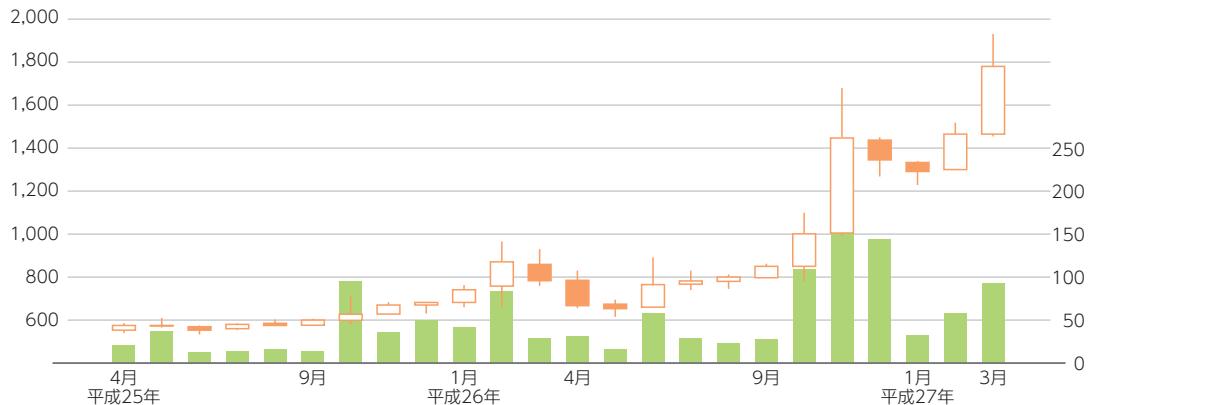
### 所有者別株式分布



### 所有数別株式分布



### 株価・出来高の推移(月足)



## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.jll.co.jp">http://www.jll.co.jp</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
〈お問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	<a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等
  - ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様  
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
  - ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様  
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について  
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

## 日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号  
電話 03-6711-5200  
URL <http://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。